◇大名無用（前篇）

帝キネ時代映畫

原作並脚色者　上島量
監督者　矢内政治
撮影者　谷口禎
主演者　實川延松
紹介　第三百五號

マキノで押本監督が作つた「大名異變」と同じ主材である。お家騒動を骨子として、奸臣の陷穽からまぬがれる爲めに、身代りを作つておく。そして此の二つの偶像的人物を中にして人間の巧利心が様々に動くのを最も大衆的に――悪く云へば餘りに俗的な階級の人々に受ける様に作られた作品である。「大名無用」では相生春久と羅持初次。「大名異變」では水島重宗と一色清宗になつてゐる。自然さに於ては後者の作品の方が優つてゐる。興味の點からは前者の方が多い。前後篇に分けたのは考へものだ。それはそんなに冗長にすべきでない様に思はれる。監督者は興味と觀客の喝采點を高潮させる爲に屢々克明すぎる説明法を用ひてゐる。これは作品としての價値を却つて傷けてしまつた。事件の多い、動きのある内容だから、脚色者も監督者も、もつと簡略に、散文的描法を避けて貰ひたかつた。延松の二役は芝居過ぎて品位少なし。（寫眞版紹介號）――水町青磁――興行價値――前後篇を同時に出せば呼物として充分。分割すれば50％の損。何人にも受けるものだが冗長さが瑕。（八月十二日　大阪芦邊劇場　神戸相生座封切）